

受賞作と講評

著作奨励賞

岡本健『n 次創作観光ーアニメ聖地巡礼／コンテンツツーリズム／観光社会学
の可能性』

(NPO 法人北海道冒険芸術出版 2013 年 2 月)

< 講評 >

本書は、著者による博士論文『情報社会における旅行者の特徴に関する観光社会学的研究』(2012 年)を基に、その後の文献研究をふまえ、新たに情報社会における観光のあり様(n 次創作観光)とその可能性を示そうとしたものである。

本書は、まず主に社会学関係の論考を整理し、今日の情報社会においては「大きな物語」の不全によって他者との関係が変容し閉塞している状況であること、そして個人は「小さな物語」を共有した島宇宙の中で「他者性を持った他者」を排除していることを示した(第 1 章)。次に、ブーアスティン、アーリなどを引きながら情報社会における観光とメディア、旅行者、ホストとゲストの関係について整理を行い、今日では旅行者のコミュニケーションが多様化し非場所化していることを指摘した。その上で濱野智史の提唱する「N 次創作」という情報行動を説明し、観光における同様の展開として「n 次創作観光」という概念を提起した(第 2 章)。

次に本書は、「個人個人が情報発信を行い、それによって構築される観光(=「n 次創作観光」)」の事例としてアニメ聖地巡礼を採り上げ、筆者のフィールドワークを基にした実証的研究を整理した(第 3 章)。その上で、アニメ聖地巡礼等のコンテンツツーリズムにおいては、個人が発信した情報が集積しボトムアップ的に観光情報を形成していること、その中ではメディア文化と地域文化が融合した新たな観光文化が創造されていること、その結果従来のゲストとホストの二項対立は超克され、コンテンツや地域に関心のある人同士の関係性によって観光が成立していることを明らかにした(第 4 章)。そしてこれからの「n 次創作観光」の展開が、島宇宙にランダムな線を引き、「他者性を持った他者」との接続の機会として機能する可能性を示した(第 5 章)。

また本書は、1 項を 2 頁とする構成、イラストや画像を表紙や本文に多数用いた装丁、800 円という価格等において、手軽に購入しやすい書籍となっている。

以上のように、本書は、今日の情報社会における社会的背景をていねいに整理・分析し、そこから明らかになった他者との関係性に関わる課題を、観光による他者との交流がそれを突破しうる可能性について、コンテンツツーリズムを事例に考察した大変意欲的な作品である。これまでの観光学研究では、観光が他者との関係において新しい展開をつくる可能性があるという示唆は示されていたが、そこに今日の情報社会が生み出す社会的背景を基にした課題を接続し、観光がそれを突破する契機と捉えた構図は極めて斬新である。そこで示された観光の可能性は、これからの観光学研究に新たな領域を示したものと評価できる。また本書が構成、装丁、価格等において意図した若年層読者への働きかけも、その後の Twitter 等 SNS における本書の話題の広がりなどを見ても成功していると考えられ、観光学研究の発展に貢献したと言える。したがって、本書は著作奨励賞に値すると思われる。